

応援します!

家庭からはじまる社会

サヨコ(歌手)

ひとりひとりの意識、生活のあり方が地域をつくり社会をつくってゆく。子育てをしているお母さんの視点で、家庭からはじまる社会・政治のたいせつさを伝えていく片山さんを応援します。

「生活」という地に足を付けて

雪子・F・グレイセング(作家)

ソフトな人当たり、人の話を聞く姿勢ゆえなのでしょう、彼女の周りにはよく人々が、おとなも子どもも集まっているようです。

それはまた彼女のエネルギー源でもあり、周りの人々のエネルギーにもなっているのだと思います。自らも「生活」という地に足を付けて、いろいろな人たちの力を引き出しながら一緒に歩んでいける、信頼できる人です。



たいせつな子ども目線

鎌仲ひとみ(映像作家)

地域の問題を解いていく以外に社会を変える方法はありません。

地域を子どもという視点から

見つめてきた片山さんを

心から応援します。

ここに解決の道があると

感じています。



私たちも応援しています!

イトー・ターリ(パフォーマンス・アーティスト)

山田真(小児科医)



片山かおるの ちょっとカエル通信

第6号 2009年1月25日発行

家の近くに安心して赤ちゃんを産んだり、いろいろ相談できるところがあると、お母さんもホッとできるよね。



『ゴミ』じゃなくて『資源』にしよう

小金井にゴミ処理施設がないいまだからこそ小金井が資源化都市ナンバーワンになれるチャンスです。なぜ『ゴミ』が出るのか、その原因から改めてみませんか。リサイクル(再生利用)・リユース(再使用)・リフューズ(ゴミになるものを買わない)・リデュース(ゴミを減らす)がかっこいい時代です。ちょっと昔のレトロな暮らしを楽しむつもりで、『ゴミ』を少なくし、どうしても出てしまうものはできるかぎり『資源』にする方法を考えてみましょう。処理施設をつくるとすれば、すべてをまとめて1ヶ所の大きな処理施設に集めるのではなく、効率的ではなくても環境に配慮した先進的な非焼却の処理施設を、各地域に分散して設置するのがいいのではと思います。『ゴミ』は自分のもとから見えなくなればなくなるわけではありません。家の近所に資源化施設があれば、『ゴミ』にしないで『資源』にするにはどうすればよいかを、ひとりひとりが学ぶことができます。

いっぱいつくって
いっぱい捨てる
いまの社会のままだと、
ぼくらがおとなになる
ころ、世界から資源が
なくなっちゃうん
じゃないかな。



物があふれ
かえっているからね。
ほんとに必要なものは
なにが見直さないと。
ゴミはすべて資源だ
という発想はどう?

片山かおるといっしょにかえる小金井の会 (略称:かおるの会)へのお誘い

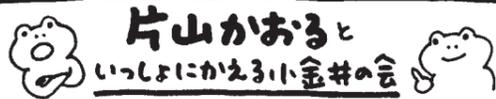
～みんなで知恵を出し合って、片山かおるとともに、
これからの小金井の町づくりを考えていきましょう～

かおるの会は、「平和」「人権」「民主主義」を基本理念に、市民参加で安心して暮らせる小金井市をつくるために活動しています。

会費は年1口1,000円。カンパも大歓迎!

郵便振替口座 00120-5-357785

「片山かおるといっしょにかえる小金井の会」



〒184-0012 小金井市中町3-10-103
tel&fax: 042-316-1511
e-mail: kaoru-09@bd5.so-net.ne.jp
http://katayamakaoru.net

みんなで、小金井を、おとなも子どもも いっしょに育つ町にするために

子どもの視点に立つと、この町ってどんなところ?

親にとって、この町で子どもを育てる時にどんなことが助けになるの?

子どもがいなくてもいっしょに同じ地域で暮らしている人にとって
どういう町なら暮らしやすいの?

いちばん声を出しにくい子どもにとって居心地のよい町こそが
お年寄りも、女性も、男性も、世代や性別、職業を問わず
誰にとっても住みやすい町です。

子育てや子ども支援、保育園や幼稚園や学校、遊び場など
子どもや子どもと生活をする人の視点に立った政策を考えていきます。

高齢者やハンディをかかえる人、失業中の人や外国籍の人でも

差別されず楽しく暮らしていける地域にするため

人権、福祉、平和、民主主義を念頭において

政策づくりをしていきます。

小金井にはたくさんの美しい木々や水辺が残っています。

人が暮らしやすい町とは

緑がいぎづき、空気と水がおいしい

地場産の新鮮な野菜がたくさん食べられる町ではないでしょうか。

みんなで知恵を出しあって

これからの小金井の町づくりをいっしょに考えていきましょう!

片山かおるがたいせつにしたいこと

子どもの権利とおとなの人権 民主主義を活かしきる 足もとからの平和

片山かおる プロフィール

1966年長崎県生まれ杉並育ち。都立豊多摩高校卒業。小4・中1の男の子とパートナー、猫とともに前原町に暮らす。8ミリ映画・実験映画などを制作上映。小金井子育て交流会「す〜ぶ」、つくろう!子どもの権利条例の会、8mmFILM 小金井街道プロジェクト、NPO法人回帰船保育所などに参加。「教育ってなんだろう?」こがねい連絡会世話人、武蔵野はらっぱ祭り実行委員会事務局、ワンズ・アイズ・フィルム代表。

片山かおる & 矢島助産院の矢島床子さん と語ろう!

お産のたらいまわし、産院の減少
1月から始まった産科医療補償制度など

「少子化」と言われながら

お産現場の充実にはほど遠い状態です。

国分寺で助産院を営む

矢島床子さんを迎えて

理想のお産や子育て環境について

語り合います。

ぜひご参加ください!

2/15(日) 14時～16時

(13時30分開場)

保育要予約

042-316-1511



コミュニティ湧

(シャトー小金井1階)

参加費: 500円

助産院や産科が
どんどん減ってる。
お産の現場をもっと
大事にしないとね。



小金井市議会議員選挙は3月29日投票です。
市議会議員・漢人あきこと「市民自治こがねい」も、
片山かおるを応援しています。

子どもが暮らしやすい町は、 おとなも暮らしやすい!

イラスト © ヲガワナオコ

ぼくらだって、
言いたいことがある。
(意見を表明するけんり)

子どもって、おとなよりよっぽど物事をきちんと見ていることが多いんだよ。子どもの意見をきちんと言える場や受け入れる土壌をつくってほしい。

子どもの視点に立つと、おとなにとっても便利だったり助かったりすることがあるんじゃないかな。



遊び遊ぶ遊ぶ、
遊んじゃえ!
(休息および余暇のけんり)

公園はおとなに管理されて自由に遊べないんだ。道路は車が多いし。。。

公園のきまりも子どもとおとながいっしょに考えられるといいよね。土や木のある遊び場がもっと必要。車がびゅんびゅん走らず、路地遊びができるように、カーシェアリングも進めたいね。

ぼくら子どもだって、
人間だ。
(虐待などから守られるけんり)

家でも学校でもいやだな、と思うことがあるけど、先生には言えない。だれに相談したらいいんだろ。

スクールソーシャルワーカーや、子どもオンブズパーソンは、子どもの立場でその子がどうしたらいいか考えてくれるんだよ。子どもが気楽に相談できる窓口や連携体制をつくっていかないとね。

国は、ぼくらが
いろんなことを免か強しながら
育っていけるようにしなきゃならない。
(教育を受けるけんり)

そうだね。ほんとは毎日午前中に授業が終わるとたっぶり遊べるよね! 子どもたちが主体的に参加できる学校にしたいね。30人ぐらいのクラスで、のびのびと勉強できれば、もっと楽しい学校になるんじゃないかな。

放課後にもっと遊べるとうれしいな!

参考文献

『子どもによる子どものための子どもの権利条約』(小学館)
『こどものけんり』(電母書房)

国や市がちゃんと保障してくれるから心配なくていいんだよ。おとなも困ったときには、もっと頼れる行政でいてほしいよね。

お父さんの会社がつぶれてお母さんもお給料が減らされてる。学校で集金があるんだけど言い出せないな...

もし、
お金がなくて
困っていたら...
(フツーに暮らせるけんり)

ぼくが気に入っている保育室の利用料は、認可保育所の4~5倍もするんだ。同じ子どもなのに、保育料にこんなに格差があるのはおかしいよ。

子どもに一番の
幸せを、ね。
(子どもの最善の利益)

おとなにとっての利便性も大事だけど、子どもたちにとって居心地がいい保育所を支えていくことが一番必要だよな。

病気や障がいがあったても、
子どものけんりはおなじだよ。
(障がいを持つ子どものけんり)

特別支援教育って本来は、特別な人のためのものじゃなくて、誰もがそれぞれ必要だって思えることに対応した教育のことなんだ。だから「こんなことが必要です」ってもっと言ってもいいんだよ。

学校で困っていることが、みんなにわかってもらえると助かるな。

国連子どもの権利条約って
知ってる?

1989年に国連で『子どもの権利条約』が採択されて、今年で20周年になります。世界のどんな国の子どもであっても、生きる権利や意見を言う権利、成長する権利や守られる権利など、子どもにとって大事な権利が脅かされることがなく、自分らしくイキイキと暮らせるように、多くの国々の間で交わした大切な約束です。

ぼくらはみんなが
集まったり、グループをつくったり
して、何かしたり、いろんな意見を言い合ったりしていいんだ。(参加のけんり)

学校の友だちと集まる場所がほしいんだ。集会所や公民館に、部室みたいな子どもの部屋があるといいかも。

それはいいね! 道端に縁台や屋台があって、おとなも子どもも井戸端会議ができる町っていうのはどう? オープンスペースで話すと煮詰まらないね。

小金井でも「子どもの権利に関する条例」案を検討しています。子どもが幸せになるためにつくられた『子どもの権利条約』から見ると、小金井の子どもに対する施策がどうなっているか、どんなことが必要なのか足りないのか、いっしょに考えていきましょう!